

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2015 年 9 月 18 日提出

氏名	鈴木 基史
所属	大学院獣医学研究科 放射線学教室
学年	博士課程 3 年
出張先	北里大学 獣医学部
出張期間	2015/9/7-2015/9/9
目的	第 158 回日本獣医学会学術集会における発表

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

2015 年 9 月 7 日～9 月 9 日の 3 日間に渡って青森県十和田市に位置する北里大学獣医学部にて開催された第 158 回日本獣医学会学術集会に参加し、これまでの研究成果について発表を行うと同時に、他の研究者の発表を聴講した。本学会は年に 1 度開催されており、獣医学、医学、実験動物学等を専門とする多くの研究者が集う学会である。そのため、発表の内容は多岐に渡り、総合的に獣医学を学ぶ絶好の場であると言える。

発表は学会 2 日目の 9/8 に生理学・生化学分科会にて「MPS1 を介したスピンドル形成チェックポイントが哺乳類動物細胞の化学療法剤感受性に与える影響脳解析」の題目で行った。今回の発表は前年に札幌で開催された前回大会での発表を発展させた内容である。その概要は、近年着目されているスピンドル形成チェックポイントを標的としたがん治療についてである。前回大会ではスピンドル形成チェックポイントを制御している MPS1 と呼ばれるリン酸化酵素の特異的阻害剤と化学療法剤を併用する事で相乗的な殺細胞効果が得られることを発表した。本学会ではそのメカニズムの詳細について報告した。前回大会の経験を踏まえた発表であったため、発表及び質疑応答は滞り無く終える事が出来たと思う。また、聴講に関しては自身の在籍している生理学・生化学分科会の他に微生物分科会や臨床分科会等に出席し、幅広い獣医学的知識を得る事が出来た。

今回の学会での発表を通して自身の研究を客観的に見直す良い機会となった。このこと今後の研究活動を行う上で非常に有意義な経験になった。本学会で発表する機会を与えて下さった研究室の先生方と、学会参加を支援して頂いたリーディングプログラムには深く感謝申し上げたい。また、今後は国内学会だけではなく国際学会においても口頭発表を行えるよう精進していきたい。

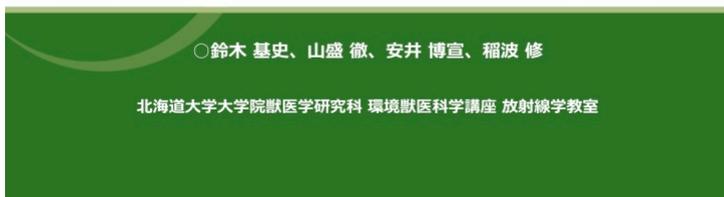


図 1. 集合写真
本研究室からは 3 名が発表
を行った



図 2. 発表スライドの一部

MPS1を介したスピンドル形成チェックポイントが哺乳
類動物細胞の化学療法剤感受性に与える影響の解析



指導教員確認欄	所属・職・氏名： 放射線学教室・教授・稲波 修 印
---------	-------------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp